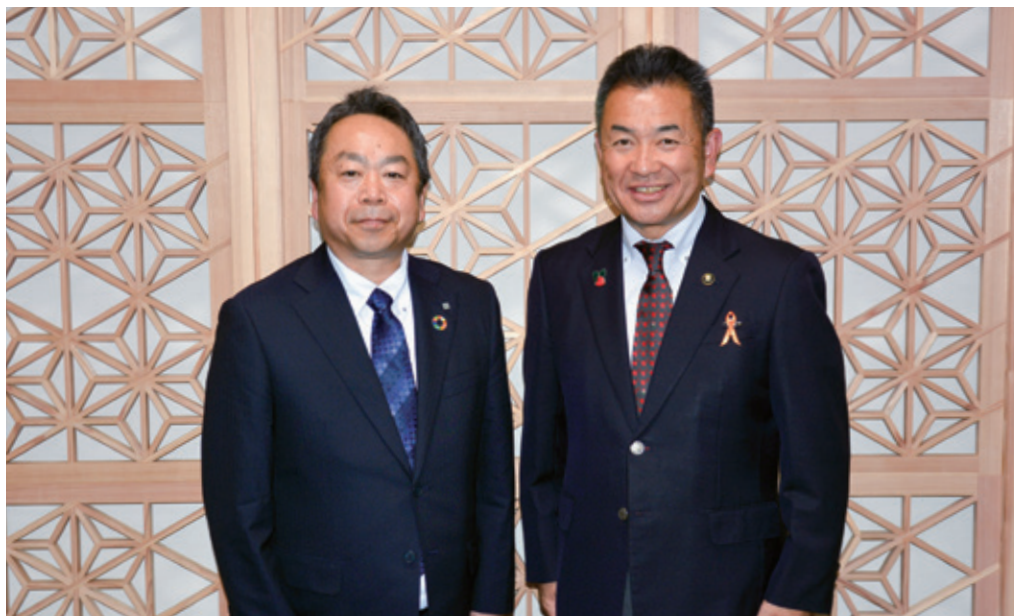


わがまち紹介

鹿沼市

市民が主役の鹿沼を創る

株式会社筑波銀行 鹿沼支店長
鈴木 孝一郎



鹿沼市長
松井 正一 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は栃木県鹿沼市です。筑波銀行鹿沼支店長 鈴木 孝一郎が鹿沼市長 松井 正一氏にお話を伺いました。

鹿沼市の多くの魅力と強みを 市政運営に生かしていきたい

鹿沼市には多くの魅力と強みがあります。まずは豊かな自然です。本市の約70%を山林が占め、中山間地域の魅力が色濃く残っています。また、江戸時代にルーツを持つ「鹿沼秋まつり」に象徴されるように、古からの歴史・文化を大切に継承してきました。

本市では、「首都圏の台所」を支える農産物や工業団地からの工業製品など、「Made in 鹿沼」と呼ぶべき鹿沼ならではのものが多く作られています。流通も非常に便がよく、さまざまな農産物や工業製品が、首都圏はもちろん全国各地に流通しています。さらに、豊かな自然を生かしたアウトドア施設などの観光資源にも恵まれています。

本市のさまざまな魅力、強みをこれからの市政運営にどのように生かしていくか、それがわたしに課せられた使命だと思っています。

キラリ輝く鹿沼未来プロジェクト 5つの重点施策

2024年6月の市長就任にあたり、市政運営の公約として「キラリ輝く鹿沼未来プロジェクト」を掲げました。重点施策は5つです。

第1に「子育て・教育」、第2に「産業振興」、第3に「福祉の充実」、第4に「防災対策」、第5に「中山間地域の活性化」。そして、これらを補完する形で市民目線の「行政改革」を進めていきます。

現在、テーマごとの具体的な政策・施策を執行部に諮っているところで、すぐに実施するもの、中長期的に実施するものに仕分け、36項目に整理してもらっています。

そのなかで、来年度から早速実施、強化したいのは、子育て・教育と産業振興に関する施策です。

子育て・教育

「子育て・教育」については、「いちごっこ出産・子育て応援事業」の拡充を図ります。「出産・子育て応援給

付金」を2025年度から、従来の妊娠時5万円、出産時5万円から各10万円の20万円の倍増する計画です。

また、「伴走型相談支援」を含め、妊娠期から出産、子育てまで、切れ目のない支援のさらなる強化を図っていきます。

教育環境については、最近の異常気象による夏場の酷暑を考慮して、小中学校の体育館にエアコンの設置を検討しています。

本市でも人口減少の傾向が否めないなか、「小中学校の適正配置」は、2022年3月策定の「第2次鹿沼市教育ビジョン」でも最重要課題の一つに挙がっています。

現状の課題としては、児童生徒数の減少により、小学校では集団での学習、行事の実施が限定的になる、中学校では望む部活動ができない、高等教育に向けて進路を決定する大切なプロセスで不安を感じる生徒がいることなどが挙げられます。

再編の方向性としては、児童生徒の視点に立ち、将来の人づくりのために充実した教育活動を提供することが大前提になりますので、一定規模の学校に再編する必要があります。また、各地域の文化を尊重し、コミュニティ単位の枠組みを踏まえつつ、配置を考えなければなりません。

市では「鹿沼市立小中学校再編計画」を2024年11月に公表し、計画策定の趣旨や背景、再編の方針、タイムスケジュールなどについて説明しています。

現在進行中の「第8次鹿沼市総合計画」は、時代の流れを見極めて軌道修正を図る項目の精査を行っているところです。子育てについては、国の「こども大綱」、栃木県の「こども計画」に呼応する形で「こども計画」の策定をスタートしました。

そのなかで、いま行われている子育て支援の施策を将来的にどのように充実・発展していくかを具体的に示す方針です。

たとえば、不妊治療に対する支援、出産後の子育てに対する支援、父母を対象にした産後ケアなどの支援を検討しています。

また、保育園や幼稚園、認定こども園の整備による義務教育への備えの充実、児童発達支援事業所による療育支援、特別支援学校などへの橋渡しなど、誰ひとり取り残さない子育て支援という考え方のもと、計画を策定していきます。

産業振興

「産業振興」については、市内企業への就職を促進するため、2025年4月から市内企業へ就職した新卒者などを対象に「新卒者就職祝金」として39,154（サンキューいちご市）円を支給します。あわせて、市内企業とは新たな就職者に対する福利厚生等の拡充等について意見交換を行い、連携して人材確保の取り組みを進めていきたいと考えています。

また、雇用確保のため、企業誘致にも積極的に取

り組んでいます。鹿沼工業団地の隣接地に整備した「鹿沼インター産業団地」は、第1期の2区画、第2期の2区画で立地企業が決定し、操業に向けてスタートしています。

誘致が順調に進んでいる要因の一つには、東北自動車道の鹿沼ICから車で約3分という立地の良さが挙げられます。

また、中山間地域対策として市西北部に「ミニ工場用地」の整備を目指します。この地域に雇用の場を確保することで、地域の雇用拡大と地域経済の活性化につなげる考えです。用地としては、工場跡地や公有地などの未利用地、また将来的には再編後の小中学校の跡地などが候補に挙げられます。

さらに、市の産業振興などの政策について、産業界、経済界、金融界、行政などが一堂に会し、組織を横断して議論する継続的な会議体として「(仮称) 鹿沼未来戦略会議」を2025年度に立ち上げたいと考えています。

鹿沼市の市民や業界の皆さんの意見を伺い、市の施策に反映することで、納税される方が市の実施する事業に対して、「なるほど、こういう使い方ならいいよね」という納得感を得られるようにしたいのです。こうしたプロセスを通して、「オール鹿沼」の計画や施策が練り上げられていくことを期待しています。



鹿沼インター産業団地

中長期的に実施したい施策

中長期的に実施したい施策としては、「インフラ整備」に関連する三つが挙げられます。一つ目が、「(仮称) 南押原スマートインターチェンジ」の整備です。鹿沼ICと都賀西方ICのちょうど中間に整備することで、本市の産業部門・流通部門の広域的な結節点が完結するのではないかと考えています。

二つ目が、JR鹿沼駅東側の整備です。「JR鹿沼駅東通り」が来春に供用を開始します。さらに周辺の都市計画の用途制限を緩和し、駅前広場、アクセス道路を整備することで、住宅や商店などが立ち並ぶ、にぎわいのあるエリアにしたいと思っています。

三つ目が、鹿沼・宇都宮間を結ぶ幹線道路「古峯原宮通り」周辺の整備です。現在整備が進んでいますが、用途地域の変更により、市民が望む衣料品量販店などのロードサイドショップを誘導したいと考えています。

「キャンプ+ (プラス)」の推進

観光の振興については、アウトドア資源を軸にした展開などを考えています。2024年4月に「スノーピーク鹿沼キャンプフィールド & スパ」がオープンしました。おかげさまで大変多くの方が県外、そして地元からも訪れ、キャンプを楽しんでいます。

キャンプに来ていただいた方に、もう一つ何か本市の観光を楽しんでもらいたい。そこで新たにスタートした観光戦略が「キャンプ+ (プラス)」です。本市の四季折々の景勝地、いちごやそば、シウマイなどの食、温泉、宿泊、ゴルフなど、さまざまな「プラス」を楽しんでもらえるよう、多様な企画を実施しています。



「スノーピーク鹿沼キャンプフィールド & スパ」のキャンプサイト

「鹿沼市花木センター」は、市花のサツキなど緑化木産業の振興・流通拠点として、また、本市のシンボリック施設として重要な役割を果たしてきました。今後はさらなる活性化へ向けて本市の魅力のPR機能を高めていくとともに、将来的に持続可能な施設にしていくため、食を楽しむ機能、公園など親子で楽しんでもらうための機能などを整備してパワーアップを図っていきます。

鹿沼市には、市民や観光客が気軽に立ち寄り、地域の情報などを得られる交流の場「まちの駅」が百か所ほどもあり、日本一の数を誇っています。参加主体も飲食店や商店、一般企業、公園、市役所などと多彩で、キャンプ+の補完的役割を期待しています。今後は市内、全国のネットワークを生かし、スタンプラリーの開催など、いろいろなことに挑戦していきたいと思っています。

「行かない窓口」の実現に向けて

本市では、「デジタル政策課」がDXを総括する役割を担っています。2024年2月には「鹿沼市DX推進計画」を策定しました。「行かない窓口」の実現に向け、LINEを活用した住民票の写しなどの各種証明書の申請を含むオンライン申請システムの導入により、効率的で利便性の高い行政サービスの提供を目指します。サービス普及のために高齢者向けのスマホ教室を開催していますが、当面はオンラインと窓口対応との両

立を図っていきます。

また、避難所に公衆Wi-Fiを設置するなど、非常時の市民の情報収集にも役立てていただきたいと考えています。あわせて、行政業務の効率化やデジタル人材の育成などを行っていきます。

「共に創る」まちづくり



本市では、2016年度に「いちご市」を宣言しました。市内で栽培が盛んで東京の市場で競りの建値にもなっているいちごを、鹿沼市のプロモーションのシンボルとして選びました。

おかげさまで「いちご市」もだいぶ定着してきました。次のステップとしては、いちごだけではなく、地域資源が豊富な鹿沼市の魅力を対外的にPRしていきたいと考えています。

市では豊かな緑や清流を表した手足にいちごがモチーフの体、さつきの帽子をかぶった鹿沼市シンボルキャラクター「ベリーちゃん」を作成し、バッジなどのグッズを作って市のPRに役立ててきました。それに加えて、農産物や鹿沼組子をモチーフにしたバッジの制作も検討しています。

こうした取り組みにより、本市の多くの魅力が対外的に認められ、市民の郷土愛の醸成につながることを期待しています。



生産が盛んないちご(左)や伝統工芸の「鹿沼組子」(右)など
鹿沼市は地域資源が豊富

そして、市民の郷土愛が「キラリ輝く鹿沼未来プロジェクト」のスローガンである「市民が主役の鹿沼を創る」にリンクし、市民の皆さんと「共に創る」まちづくりができればいいと考えています。

筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんには、これからも金融という専門的な見地から市民や企業の相談に乗り、提案・支援をしていただければ幸いです。

また、筑波銀行さんには身近な銀行というイメージがありますので、イベントなどさまざまな場面で地域との交流を深めていただきたいです。そして、筑波銀行さんからも本市のいいところを発信していただけるとありがたいです。(取材日:2024年11月1日)

鹿沼市は、豊かな自然とおいしい食べもの、大切に受け継がれてきた歴史・文化など、魅力あふれるまちです。そんなまちの魅力を堪能できる伝統の祭り・行事や食のイベントなどを紹介します。

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

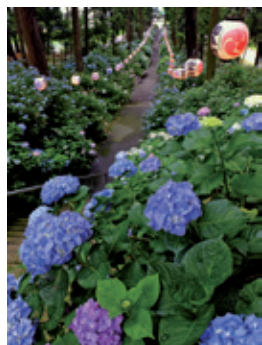
鹿沼秋まつり

国指定重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産にも登録されている今宮神社秋の例大祭で、例年10月上旬の土日開催されます。江戸時代に起源を持ち、彫刻屋台が織りなす勇壮優美、豪華絢爛な時代絵巻を堪能できます。初日は各町の彫刻屋台が今宮神社に集まり神事を行い、夕方は提灯に明かりをともして自町内へと戻る道すがら、お囃子の競演である「ぶっつけ」を行います。2日目は屋台揃い曳きが行われるほか、会場各所で市の伝統芸能などが披露されます。



磯山神社のあじさい祭り

例年6月中下旬から7月上旬にかけて、磯山神社の参道、社殿周囲に植栽された28種2,500株のアジサイが見頃となり、杉の緑と素晴らしいコントラストを見せます。夕刻から夜(午後8時)には、提灯がともされる薄明かりのなか、淡い光に映し出されるアジサイが幽玄な雰囲気を出します。期間中は「茅の輪」を設置し、それをくぐると無病息災が得られるといわれています。



いきこ 生子神社の泣き相撲

子どもの健やかな成長を祈願して縦山町の生子神社で開催される奇習行事。毎年9月19日以降最初の日曜日を大祭日と定め実施されます。神社境内の土俵に役員氏子がまわし姿の力士に扮し、東西から幼児を抱きかかえ土俵に上がります。そして、掛け声とともに頭上高く3回ほど持ち上げて、元気な泣き声を競います。これは「泣く子は育つ」という縁起をかついだ習俗が奉納相撲に取り入れられたもので、全国的にも貴重な行事です。



鹿沼そば天国

鹿沼市は関東有数のそばの郷として知られ、そばの作付面積・生産量ともに栃木県内トップクラスです。そばの味イベント「第16回鹿沼そば天国」は、2024年11月9日、10日に花木センターで開催。2023年に農林水産省GI登録となった「鹿沼在来そば」を使用した「和牛とろろそば」を鹿沼そば振興会ブースで限定販売しました。ほかにも加盟店から4店舗、そば街道の日光手打ちそばの会と松月庵、さらに福島県あぶくま高原蕎麦振興協議会の計8店舗が出店。それぞれ特色のあるそばの味に来場者が舌鼓を打ちました。

